

第6章 桂地区の課題・問題点

桂地区の課題・問題点については、これまで計5回の「桂地区交通バリアフリー移動円滑化基本構想策定連絡会議」(以下「連絡会議」といいます。)において数多くの意見をいただき、全体構想を策定する際に実施した市民意見募集においてもいくつかの意見をいただきました。また、平成15年2月には、連絡会議の下に設置した分科会により現地踏査(以下「現地踏査の分科会」といいます。)を実施し、桂駅や特定経路、準特定経路を主体とした道路などの実態を調査して、詳細な課題・問題点の抽出を行い、意見交換を行いました。

ここに、これらの概要として、主な課題・問題点及び改善要望などを示します。

なお、現地踏査の分科会の概要を巻末の参考資料1に示します。

1 桂駅の課題・問題点

以下の区分に基づいて、桂駅の課題・問題点及び改善要望などの概要を示します。

利用動線：段差解消の状況やエレベーター、エスカレーターの設置状況など

情報案内設備：誘導・警告ブロックの設置状況やホーム上での音声・文字情報案内の状況など

利便設備：車いす対応型トイレや休憩設備(ベンチ、待合室)の設置状況など

個別設備：券売機や改札口の状況など

この区分に基づく桂駅のバリアフリー状況を表9に示します。

また、桂駅の課題・問題点マップを図7に示します。

(1) 利用動線

ア 駅前広場から改札口に至る経路にはエレベーターとエスカレーター(東口は上り下りの両方、西口は上りのみ)が共に整備されています。しかし、改札口からホームに至る経路には、エスカレーター(上りのみ)は整備されていますが、エレベーターは整備されていません。

イ ホームと車両の乗降口との間にある段差や隙間をもっと小さくしてほしいとの要望があります。

(2) 情報案内設備

ア エレベーターなどの設備の位置を示す案内表示や行先案内表示など、全体的に案内表示が不統一で不明確であるとの指摘があります。

イ 列車の遅延情報も表示できる電光式の列車案内表示板を、梅田方面ホームだけではなく他のホームにも設置してほしいという要望があります。

(3) 利便設備

ア 車いす対応型トイレが設置されていますが、オストメイト対応(人口肛門や人工膀胱を付けた人が器具の洗浄などを行える設備を備えること)など多目的トイレとして改良してほしいという要望があります。

イ 待合室の入口に段差があり、室内には車いすの回転スペースがないとの指摘があります。

(4) 個別施設

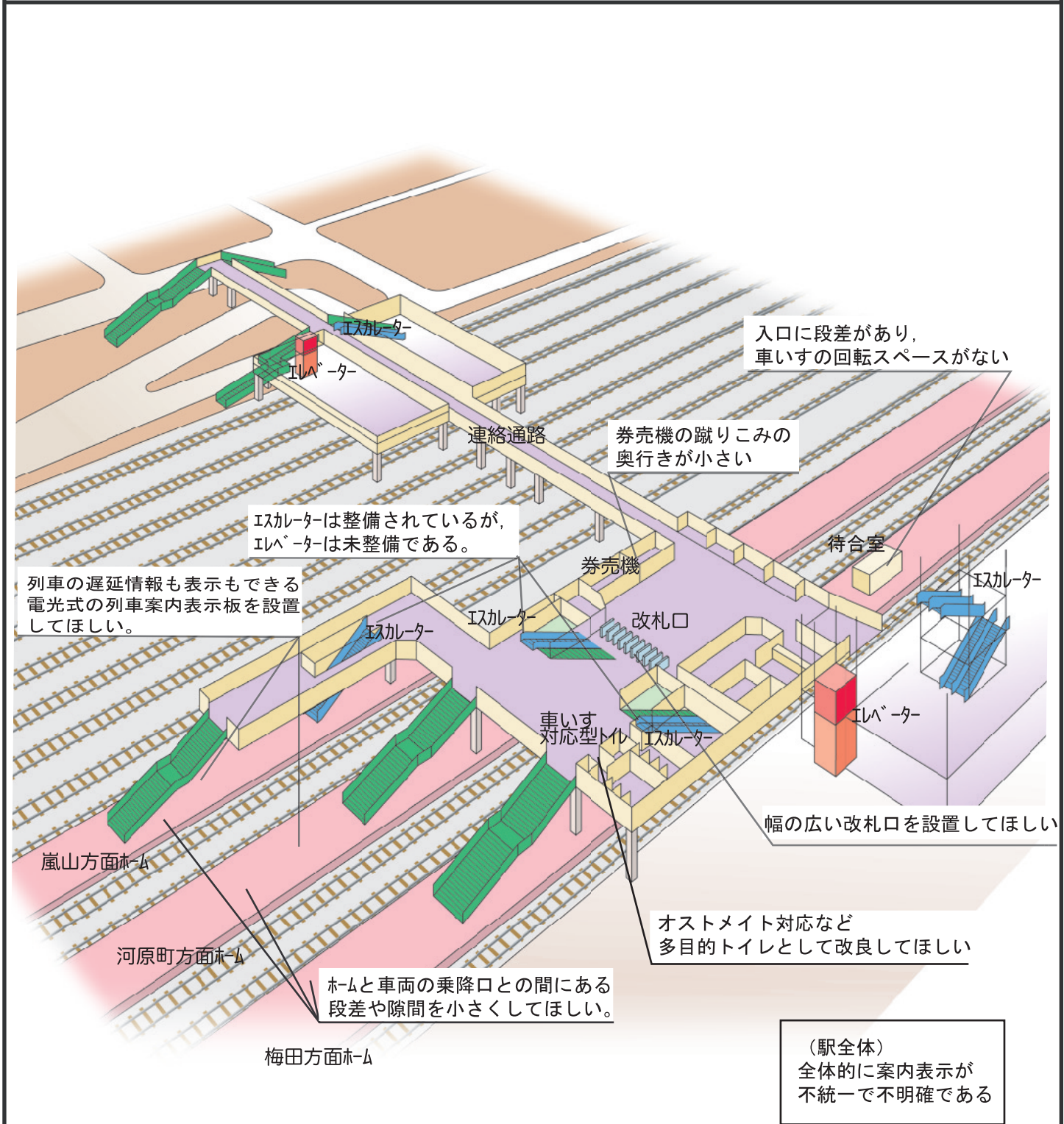
ア 幅の広い改札口を設置してほしいという要望があります。

イ 券売機の蹴りこみの奥行きが小さいなど、車いす利用者には利用しにくいという指摘があります。

表 9 桂駅のバリアフリー状況

鉄 道	阪 急 電 鉄			
路 線 名	京 都 線			
駅 名	桂 駅			
駅 の 構 造	橋 上 駅			
1 日平均乗降客数 (人/日)	59,609 人/日			
1 日平均利用者数 (人/日) 改札内乗換客数を加算	76,533 人/日			
最 大 段 差	駅前広場～改札口(改札外)	6.9m		
	改札口～プラットフォーム(改札内)	5.7m		
段差解消の状況	駅前広場～改札口(改札外)		エレベーター設置済	
	改札口～プラットフォーム(改札内)	×	階段, エスカレーター(エレベーター無し)	
情報案内設備	誘導警告ブロックの設置状況		改札外エレベーター～券売機～改札口～プラットフォームに連続して有り	
	運 行 情 報 設 備 ホーム上での 文字情報	音 声 案 内		アナウンス有り
		梅田方面ホーム		電光式(LED)有り(行先, 発車時刻表示等)
		河原町方面ホーム		多面式有り(行先表示等)
		嵐山方面ホーム		電光式有り(行先表示等)
	券売機に併設した点字料金表示			有り
利 便 設 備	ト イ レ		車いす対応型トイレ有り	
	休憩設備	梅田方面ホーム	ベンチ、待合所有り	
		河原町方面ホーム	ベンチ、待合所有り	
		嵐山方面ホーム	ベンチ、待合所有り	
個 別 設 備	プラットホーム	転落防止対策	全てのプラットホームに, ホーム端の転落防止柵及びホーム上の警告ブロック有り	
	券売機	車いす対応(下部スペース)	車いす対応型券売機有り	
	改札口	幅広タイプ(90cm以上)	暫定措置として, 一般の改札機を90cm以上に拡幅	

図-7 阪急桂駅の課題・問題点マップ



2 駅前広場及び道路などの課題・問題点

以下に、駅前広場や道路などの課題・問題点及び改善要望などの概要を示します。

駅前広場や道路などの課題・問題点マップを図 8 に示します。

(1) 駅前広場(東口,西口共通)

ア 誘導ブロック

バス、タクシー乗降場などへの誘導ブロックが不連続であったり、誘導ブロックと舗装材とが識別しにくい箇所があります。

イ 歩道の勾配や歩道と車道との段差

歩道の勾配が、特に横断歩道部において大きく、また、バス、タクシー乗降場や横断歩道部における歩道と車道との段差が大きくなっています。

ウ 案内表示

バス、タクシー乗降場の案内表示や行先案内表示など、全体的に案内表示を充実させてほしいという要望があります。

(2) 道路

ア 特定経路 (桂駅～西京都病院の区間の東側)

概ね両側に幅員 2 m 以上の歩道が整備されていますが、交差点部や車両乗入部の勾配が大きく、横断歩道部においては、歩道と車道との段差が大きくなっています。

また、柵や電話ボックス、看板などが通行の障害となっているとの指摘があります。

イ 特定経路 (桂駅～桂高校の経路)

桂駅東通では、東口駅前広場から旧山陰街道までの区間は改良済みであり、幅の広い平坦な歩道が確保されていますが、旧山陰街道から新山陰街道までの区間は、歩道が狭いとともに全体的に段差や勾配が大きく、また、電柱などが通行の障害になっているなど大変移動しにくい状況になっています。

新山陰街道では、幅の広い歩道が確保されていますが、交差点部や車両乗入部の勾配が大きく、横断歩道部においては、歩道と車道との段差が大きくなっています。また、桂高校前の信号機に音響装置が付いていないなどの指摘があります。

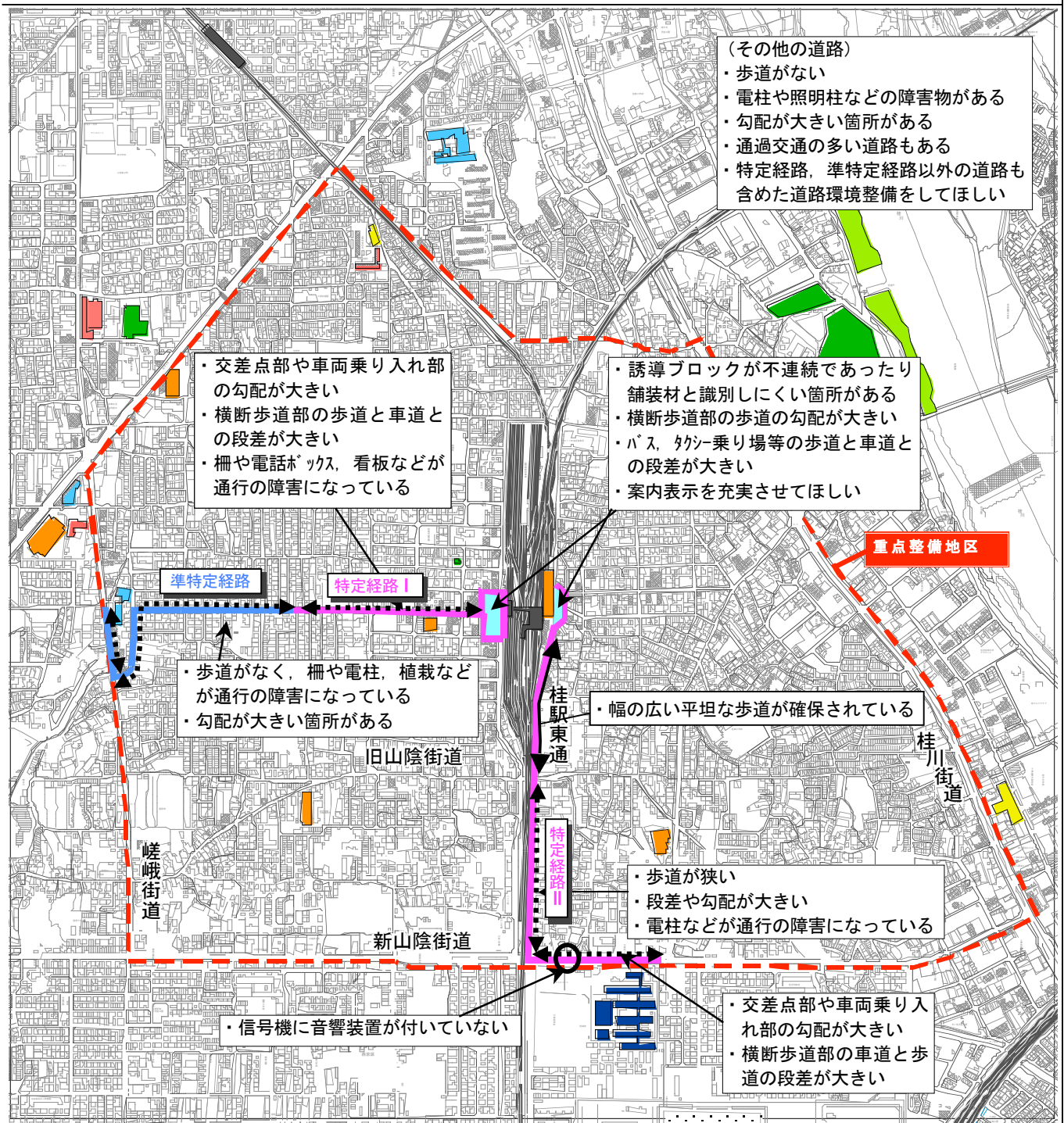
ウ 準特定経路(桂駅～西京都病院の区間の西側)

歩道がなく、柵や電柱、植栽などがあり、勾配も大きいなど大変移動しにくい状況になっています。








エ その他の道路

桂地区の道路の大部分は、歩道がなく、電柱や照明柱などの障害物があったり勾配の大きい箇所があったりして移動しにくい状況になっており、また、通過交通の多い道路もあるため、地区の居住環境整備の観点から、特定経路・準特定経路以外の道路も含めた道路環境整備をしてほしいとの要望があります。

図-8 駅前広場及び道路などの課題・問題点マップ



凡例

- | | |
|--|--|
|  旅客施設 (鉄道) |  重点整備地区 |
|  官公庁施設 |  特定経路 |
|  福祉施設 |  準特定経路 |
|  医療施設 |  駅前広場 |
|  教育施設 | |
|  文化・レクリエーション施設等 | |
|  都市公園・緑地 | |
|  商業施設 | |

